

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

|      |            |
|------|------------|
| 学校名  | 北洋大学       |
| 設置者名 | 学校法人 京都市英館 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名    | 学科名      | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 |         |      |    | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|--------|----------|-----------|-----------------------|---------|------|----|-------------|------|
|        |          |           | 全学共通科目                | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 |             |      |
| 国際文化学部 | キャリア創造学科 | 夜・通信      | 5                     |         | 8    | 13 | 13          |      |
|        |          | 夜・通信      |                       |         |      |    |             |      |
| (備考)   |          |           |                       |         |      |    |             |      |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

|   |
|---|
| <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/</a> |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

|           |
|-----------|
| 学部等名      |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

|      |             |
|------|-------------|
| 学校名  | 北洋大学        |
| 設置者名 | 学校法人 京都市育英館 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職       | 任期                              | 担当する職務内容<br>や期待する役割 |
|----------|--------------|---------------------------------|---------------------|
| 非常勤      | 市役所職員        | 2019年11月19日<br>～<br>2022年11月18日 | 地域連携への提言<br>経営計画の策定 |
| 非常勤      | 他の<br>学校法人理事 | 2022年5月30日<br>～<br>2025年5月29日   | 法人運営の提言             |
| (備考)     |              |                                 |                     |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

|      |            |
|------|------------|
| 学校名  | 北洋大学       |
| 設置者名 | 学校法人 京都市英館 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

|   |   |
|---|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。   |   |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)<br>各授業科目のシラバスでは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに従った到達目標を明示し、履修者にとって「この講義では何を学ぶことができるのか」を丁寧に説明している。具体的には以下の項目を記載している。                                     |   |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 到達目標</li> <li>2 講義内容</li> <li>3 取得可能な資格</li> <li>4 授業計画</li> <li>5 成績評価の方法</li> <li>6 授業の方法</li> <li>7 テキスト(参考図書)</li> </ol> |   |
| また、各担当教員によって、シラバスの内容の見直しを行い、学生のニーズに応える講義内容を検討している。さらに、本学全体でより良い教育内容を提供することを目指して、必要に応じ、教務委員会でカリキュラム内容を検討し、見直しを行っている。   |   |
| なお、入学式後のオリエンテーションをはじめ、当該内容の説明が必要と判断される節目において、学生に対し、説明を行っている。(専門ゼミナールの履修登録時等)  |   |
| 授業計画書の公表方法  | <a href="https://syllabus.hokuyo.ac.jp/syllabus/sy_top.asp">https://syllabus.hokuyo.ac.jp/syllabus/sy_top.asp</a> |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。  |   |

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位認定については、各担当教員が、学則、シラバス等に明示した評価基準に基づき公正に判断している。また、各教員は講義開始時のオリエンテーションによって、受講生に対して成績評価について説明を行い、十分に理解を得るように努めている。

各教員によって、単位認定の条件としてレポートを課すか試験を実施するかは判断されるが、結果を出した後、仮に受講者が（その成績に対して）不服の場合は、申し立てることも可能としている。（自身の成績の根拠等）

成績評価の具体的な算出方法は、次の「3」で後述する。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は学則に則り、シラバスに明示した評価方法に基づき100点満点で採点・認定しており、成績評価の基準は次のとおりである。なお、既修得科目の認定評価は「認定」と表記している。

1 以下の成績評価の区分に応じて、以下のGPを付与する。

| 評価 | 評点      | GP |
|----|---------|----|
| S  | 90～100点 | 4  |
| A  | 80～89点  | 3  |
| B  | 70～79点  | 2  |
| C  | 60～69点  | 1  |
| F  | 59点以下   | 0  |

2 GPAの数值は、以下の式で算出する。（小数点第3位を四捨五入する。）

$$GPA = \frac{(\text{各科目の単位数} \times \text{その科目で取得したGP})\text{の総和}}{\text{履修登録した科目の総単位数}}$$

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

履修の手引き p.25 を参照

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では、「明德・格物致知の実践」を通じて、社会で活躍できる、有為な人材を育成することを教育の目的として、所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

- 1 文章を正しく読み、書き、自分の考えを論理的に表現できる力
- 2 基本的な英語の読み、書き、英語で自分の意思を伝えることのできる力
- 3 広い視点から情報を判断、分析し、分かりやすく情報を発信する力
- 4 幅広く豊かな教養をそなえ、多様な文化、価値観を理解する力
- 5 社会におけるさまざまな問題を見つけ、主体的に問題解決に取り組む力

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

<https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

|      |            |
|------|------------|
| 学校名  | 北洋大学       |
| 設置者名 | 学校法人 京都育英館 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等        | 公表方法  |
|--------------|---|
| 貸借対照表        | <a href="https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php">https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php</a> |
| 収支計算書又は損益計算書 | <a href="https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php">https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php</a> |
| 財産目録         | <a href="https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php">https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php</a> |
| 事業報告書        | <a href="https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php">https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php</a> |
| 監事による監査報告(書) | <a href="https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php">https://www.kyotokango.ac.jp/about/disclosure.php</a> |

2. 事業計画(任意記載事項)

|             |         |
|-------------|---------|
| 単年度計画(名称: ) | 対象年度: ) |
| 公表方法:       |         |
| 中長期計画(名称: ) | 対象年度: ) |
| 公表方法:       |         |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

|   |
|---|
| 公表方法: <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/</a> |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

|       |
|-------|
| 公表方法: |
|-------|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

|   |
|---|
| 学部等名 国際文化学部   |
| 教育研究上の目的 (公表方法: <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/27/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/27/</a> )   |
| (概要)<br><教育目標><br>建学の理念である「明德・格物致知」について、本学は、「人は、物事の道理や本質を深く理解して知識や学問を深めることにより、自らが持つ天から与えられた優れた徳性を明らかにすることができ、人は、この自らの特性を悟ったとき、おのずと自ら及び他者に対して正しく公明な愛を向けることができる」ことと解釈している。<br>学生に対し、多くの知識とかけがえのない経験を受けることにより、自身を磨き、更なる高みへと到達させ、世界中で貢献できる人材を育成することを目指している。   |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法: <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/</a> )  |
| (概要)<br><ディプロマ・ポリシー><br>本学では、「明德・格物致知の実践」を通じて、社会で活躍できる、有為な人材を育成することを教育の目的として、所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。<br>1 文章を正しく読み、書き、自分の考えを論理的に表現できる力<br>2 基本的な英語の読み、書き、英語で自分の意思を伝えることのできる力<br>3 広い視点から情報を判断、分析し、分かりやすく情報を発信する力<br>4 幅広く豊かな教養をそなえ、多様な文化、価値観を理解する力<br>5 社会におけるさまざまな問題を見つけ、主体的に問題解決に取り組む力  |
| 教育課程の編成及び実施に関する方法 (公表方法: <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/39/</a> )  |
| (概要)<br><カリキュラム・ポリシー><br>○ キャリア創造学科<br>学位授与の方針に掲げた人材を育成するため、「一般教育科目」「専門科目」「演習科目」「実習科目」「関連科目」を配置し、教育を行う。「専門科目」には、多様な文化を理解するための「異文化教育科目群」、人生を決定する職業選択(キャリア形成)に必要な知識と基本的なビジネススキルを養成するための「キャリア教育科目群」を配置する。<br><br>■ 一般教育科目<br>1 年次に配置される必修科目「基礎ゼミナールⅠ」「基礎ゼミナールⅡ」「キャリアデザイン入門」「キャリアデザイン概論」では、学習習慣を確立し、大学での学修方法、レポートの書き方、文章表現力を学ぶ。また、現代社会と自分の将来を見つめ、自己を実現するための社会人基礎力、コミュニケーション力を身につける。主として社会・人文分野における幅広い教養を身につけ、社会人として要求される一般的知識を身につけるとともに、専門的知識を身につけるための基盤を作る。<br><br>■ 専門科目<br>「キャリア・情報」ではキャリア理論、就職支援科目を配置し、実践的なビジネススキルなど社会で要求される基礎的なことを学ぶ。「文化・社会」では、多様な文化の理解を深めつつ幅広い教養を身につけ、多角的な視点から様々な分野で要求される知識を身につける。「言語文化」では「英語コース」「中国語コース」「日本語コース」の各コースの必修 |

科目を中心に基礎から段階的に学習し日常会話からビジネスシーンで使える語学力を身につけることはもちろん、コミュニケーション力を養う。

■ 演習科目

2年次春 Semester から3年次秋 Semester にかけて段階的に配置される「専門ゼミナールⅠ～Ⅳ」は、少人数の指導の下、各分野における方法論を学び、専門性を深めるのみならず、自立した社会人として期待される能力を養成する。また、ゼミナールの総仕上げとして「卒業研究」で論文を仕上げる。

■ 実習科目

1年次春 Semester から配置される「伝統文化」などの科目に加え、他者との協働性や社会参画のための態度を養うための「実践型インターンシップ」「地域創生」「フィールドワーク」などの科目も配置している。

■ 関連科目

主として2年次春 Semester から配置される「関連科目」は、学生の就職支援として、各種検定試験の準備を行うための科目です。TOEIC、英語検定、IT パスポート試験、情報セキュリティマネジメント試験、簿記検定、日本語能力試験など、資格取得の支援を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://hokuyo.ac.jp/publics/index/27/>）

（概要）

＜アドミッション・ポリシー＞

本学では、教育目標を実現するために、豊かな教養を身につけるための努力ができ、グローバル社会で活躍する意欲のある人を求めています。

- 1 目的意識のある人
- 2 ビジネス能力の習得に対する強い意欲を持ち、そのために努力ができる人
- 3 将来グローバル社会で活躍することを強く望んでいる人
- 4 自ら解決できるような知識と技能を習得したいと考えている人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://hokuyo.ac.jp/publics/index/47/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者）                        |        |   |     |             |    |           |     |
|------------------------------------|--------|---|-----|-------------|----|-----------|-----|
| 学部等の組織の名称                          | 学長・副学長 | 教授  | 准教授 | 講師          | 助教 | 助手<br>その他 | 計   |
| —                                  | 1人     | —   |     |             |    |           | 1人  |
| —                                  | —      | 6人  | 人   | 7人          | 人  | 人         | 13人 |
| —                                  | —      | 人   | 人   | 人           | 人  | 人         | 人   |
| b. 教員数（兼務者）                        |        |   |     |             |    |           |     |
| 学長・副学長                             |        |   |     | 学長・副学長以外の教員 |    |           | 計   |
| 0人                                 |        |   |     | 16人         |    |           | 16人 |
| 各教員の有する学位及び業績<br>(教員データベース等)       |        | 公表方法： <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/51/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/51/</a> |     |             |    |           |     |
| c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） |        |   |     |             |    |           |     |
|                                    |        |   |     |             |    |           |     |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 |             |             |     |             |             |     |           |           |
|-------------------------|-------------|-------------|-----|-------------|-------------|-----|-----------|-----------|
| 学部等名                    | 入学定員<br>(a) | 入学者数<br>(b) | b/a | 収容定員<br>(c) | 在学生数<br>(d) | d/c | 編入学<br>定員 | 編入学<br>者数 |
| 国際文化学部                  | 75人         | 33人         | 44% | 300人        | 132人        | 44% | 0人        | 9人        |
|                         | 人           | 人           | %   | 人           | 人           | %   | 人         | 人         |
| 合計                      | 75人         | 33人         | 44% | 300人        | 132人        | 44% | 0人        | 9人        |
| (備考)                    |             |             |     |             |             |     |           |           |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数    |              |                |                   |                |
|----------------------|--------------|----------------|-------------------|----------------|
| 学部等名                 | 卒業生数         | 進学者数           | 就職者数<br>(自営業を含む。) | その他            |
| 国際文化学部               | 8人<br>(100%) | 1人<br>( 12.5%) | 4人<br>( 50%)      | 3人<br>( 37.5%) |
|                      | 人<br>( %)    | 人<br>( %)      | 人<br>( %)         | 人<br>( %)      |
| 合計                   | 8人<br>(100%) | 1人<br>( 12.5%) | 4人<br>( 50%)      | 3人<br>( 37.5%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) |              |                |                   |                |
| (備考)                 |              |                |                   |                |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項） |             |                 |           |           |           |
|--|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名                                     | 入学者数        | 修業年限期間内<br>卒業者数 | 留年者数      | 中途退学者数    | その他       |
|  | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
|  | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
| 合計                                       | 人<br>(100%) | 人<br>( %)       | 人<br>( %) | 人<br>( %) | 人<br>( %) |
| (備考)                                     |             |                 |           |           |           |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

|  |
|--|
| <p>(概要)</p> <p>各授業科目のシラバスでは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに従った到達目標を明示し、履修者にとって「この講義では何を学ぶことができるのか」を丁寧に説明している。具体的には以下の項目を記載している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 到達目標</li> <li>2 講義内容</li> <li>3 取得可能な資格</li> <li>4 授業計画</li> <li>5 成績評価の方法</li> <li>6 授業の方法</li> <li>7 テキスト（参考図書）</li> </ol> <p>また、各担当教員によって、シラバスの内容の見直しを行い、学生のニーズに応える講義内容を検討している。さらに、本学全体でより良い教育内容を提供することを目指して、必要に応じ、教務委員会でカリキュラム内容を検討し、見直しを行っている。</p> |
|--|

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| <p>(概要)</p> <p>&lt;ディプロマ・ポリシー&gt;</p> <p>本学では、「明德・格物致知の実践」を通じて、社会で活躍できる、有為な人材を育成することを教育の目的として、所定の教育課程を修め、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文章を正しく読み、書き、自分の考えを論理的に表現できる力</li> <li>2 基本的な英語の読み、書き、英語で自分の意思を伝えることのできる力</li> <li>3 広い視点から情報を判断、分析し、分かりやすく情報を発信する力</li> <li>4 幅広く豊かな教養をそなえ、多様な文化、価値観を理解する力</li> <li>5 社会におけるさまざまな問題を見つけ、主体的に問題解決に取り組む力</li> </ol> |          |                 |                      |                       |
|--|----------|-----------------|----------------------|-----------------------|
| 学部名  | 学科名      | 卒業に必要となる<br>単位数 | GPA制度の採用<br>(任意記載事項) | 履修単位の登録上限<br>(任意記載事項) |
| 国際文化学部   | キャリア創造学科 | 124 単位          | 有・無                  | 単位                    |
|  |          | 単位              | 有・無                  | 単位                    |
|  |          | 単位              | 有・無                  | 単位                    |
|  |          | 単位              | 有・無                  | 単位                    |

|                            |       |
|----------------------------|-------|
| G P Aの活用状況（任意記載事項）         | 公表方法： |
| 学生の学修状況に係る参考情報<br>（任意記載事項） | 公表方法： |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://hokuyo.ac.jp/publics/index/32/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名        | 学科名          | 授業料<br>(年間) | 入学金       | その他       | 備考 (任意記載事項) |
|------------|--------------|-------------|-----------|-----------|-------------|
| 国際文化<br>学部 | キャリア<br>創造学科 | 680,000 円   | 200,000 円 | 250,000 円 |             |
|            |              | 円           | 円         | 円         |             |
|            |              | 円           | 円         | 円         |             |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

|  |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組  |
| (概要)<br>1 学修支援<br>本学では、それぞれの学生に対して個々に相談等による担任制を採用している。また、各教員がオフィスアワーを設定し、履修上の相談、卒業に必要な単位修得のためのナビゲーション等、学生一人ひとりに対するきめ細かい個別指導を実施している。<br><br>2 経済支援 (授業料全額又は半額免除)<br>ア 北洋大学 特別奨学金Ⅰ<br>イ 北洋大学 特別奨学金Ⅱ  |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組   |
| (概要)<br>本学では、学生相談窓口として学生相談室を設置し、学生がいつでも進路選択を相談できる環境をつくり、同窓口の担当が学年担当教員やゼミ担当教員と連携し、学生一人ひとりの進路指導等について、丁寧にサポートしている。<br>また、本学は「キャリア教育」に力を入れており、語学力とビジネス能力の育成を基礎とした4つのキャリアモデル(「経済・経営系、情報メディア系、観光文化系、公共政策系)に合わせたカリキュラムを展開しているうえ、TOEIC や中国語検定などの資格取得も奨励している。 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組  |
| (概要)<br>本学では、相談窓口である学生相談室において、学生生活全ての相談支援を行い、全学生を対象とした定期健康診断も実施している。<br>さらに、学生相談室を設置し、カウンセラーを配置し、月1回程度、学生が自らメールにてカウンセラーに相談することも可能としている。  |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

|  |
|--|
| 公表方法 : <a href="https://hokuyo.ac.jp/publics/index/51/">https://hokuyo.ac.jp/publics/index/51/</a> |
|--|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

|      |             |
|------|-------------|
| 学校名  | 北洋大学        |
| 設置者名 | 学校法人 京都市育英館 |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

|                    |      | 前半期 | 後半期 | 年間  |
|--------------------|------|-----|-----|-----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） |      | 8人  | 14人 | 14人 |
| 内<br>訳             | 第Ⅰ区分 | 3人  | 8人  |     |
|                    | 第Ⅱ区分 | 3人  | 3人  |     |
|                    | 第Ⅲ区分 | 2人  | 3人  |     |
| 家計急変による支援対象者（年間）   |      |     |     | 0人  |
| 合計（年間）             |      |     |     | 14人 |
| (備考)               |      |     |     |     |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

|    |    |
|----|----|
| 年間 | 0人 |
|----|----|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

|   | 右以外の大学等 |     |     |
|---|---------|-----|-----|
|   | 年間      | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定  | 0人      | 0人  | 0人  |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下<br>(単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下) | 0人      | 0人  | 0人  |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況                                       | 0人      | 0人  | 0人  |
| 「警告」の区分に連続して該当  | 0人      | 0人  | 0人  |
| 計   | 0人      | 0人  | 0人  |
| (備考)  |         |     |     |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 |    | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） |   |     |   |
|---------|----|---|---|-----|---|
| 年間      | 0人 | 前半期   | 人 | 後半期 | 人 |
|         |    |   |   |     |   |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

|         |    |
|---------|----|
| 退学      | 1人 |
| 3月以上の停学 | 0人 |
| 年間計     | 1人 |
| (備考)    |    |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

|         |    |
|---------|----|
| 3月未満の停学 | 0人 |
| 訓告      | 0人 |
| 年間計     | 0人 |
| (備考)    |    |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

|   | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの<br>に限り、認定専攻科を含む。）、<br>高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が<br>2年以下のものに限る。） |     |
|---|---------|---|-----|
|   | 年間      | 前半期   | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数<br>の6割以下<br>(単位制によらない専門学校に<br>あつては、履修科目の単位時間<br>数が標準時間数の6割以下) | 0人      | 人   | 人   |
| G P A等が下位4分の1   | 0人      | 人   | 人   |
| 出席率が8割以下その他<br>学修意欲が低い状況  | 0人      | 人   | 人   |
| 計   | 0人      | 人   | 人   |
| (備考)  |         |   |     |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。